

第8期 第4回 与謝野町産業振興会議 会議報告書

日 時 令和7年11月28日(金) 午後7時00分～午後8時05分

場 所 岩滝保健センター2階 会議室1・2

出 席 (敬称略)

小林 厚美	寺立 浩人	岩西 拓男	足立 克徳
西村 彬弘	安達 幸三	青木 一博	小山 大介
小森 哲哉	小田垣 凜	江種 里栄子	

欠 席 (敬称略)

西原 新介	糸井 宏輔	谷口 祐一	太田 桂史
山添 宏明	大槻 晃一	宮崎 真実	

事務局

産業観光課 市田課長	産業観光課 田村補佐	同 井上係長	同 妹尾係長
同 西原主査	農林環境課 細見主任		

傍聴者 なし

会議概要

1. 開会 (小林会長)

2. 議事

(1) 金融支援制度の見直し並びに外国人労働者雇用支援制度について

・第2回、第3回会議の振り返りから、両制度の方向性のまとめ

過去2回の会議での議論に基づき、次のとおり事務局から主な課題と意見を説明し、まとめ(案)について確認を行った。

1. 金融支援制度の見直しの方向性について

<第2回会議で出た主な課題と意見>

- 制度の認知度の低さ
- 支援の補助額が少なく、事業者が融資を受けるインセンティブにならないため、制度自体の抜本的な見直しや、他の事業への予算配分を求める意見
- 金利上昇の局面にあることから、見直しのタイミングを様子見すべきとの意見

＜議論のとりまとめ＞

- ◎ 制度の認知度が低いので、事業者向け広報を充実するべき。(制度の認知度向上)
- ◎ 見直しは、制度利用者の意見も反映した見直しにするべき。
- ◎ 制度利用の動きや金利上昇の局面を考慮し、見直しの再議論の時期を令和 9 年度 (2027 年度) 以降の会議とする。

2. 外国人労働者雇用支援制度に係る方向性について

＜第 3 回会議で出た主な課題と意見＞

- 外国人労働者に限らず、人材確保に向けた支援制度の充実が必要である。
- 雇用だけでなく、定住・定着を支援するソフト面（日本語教育や多文化共生推進など）の支援策を重視すべきである（京丹後市の事例も参考）。
- 事業者側の外国人雇用に対する理解促進が必要である。

＜議論のとりまとめ＞

- ◎ 外国人や介護人材に限定せず、人材確保に向けた支援制度を充実する。
- ◎ 将来的な外国人人材への依存を想定し、事業者への外国人雇用制度の理解促進を進める。
- ◎ 地域全体で外国人を受け入れる体制や心構え、定着・定住を促すソフト面を含めた包括的な体制づくりを進める。

以上の議論のとりまとめについて、産業振興会議からの提言として、課内、関係課に共有する旨を報告

(2) 与謝野町の観光振興に関する計画等について

- ・ 与謝野町が目指す観光
- ・ ちりめん街道滞在交流マスタープラン
- ・ 阿蘇ベイエリア活性化マスタープラン

第 8 期産業振興会議のメインテーマである「観光振興」について、与謝野町が目指す観光と、既存個別計画について概要説明を行った。

1. 観光振興の方向性

- 目的：人口減少社会における地域経済への貢献、持続可能な地域活性化（暮らしを守りつつ、関係人口・交流人口の創出）。
- 課題：有名観光地の欠如、観光消費額の低迷、観光分野のプレイヤー不足、「通過されるまち」になっていること。
- 戦略：「見る観光」ではなく、「体験する観光」を推進し、「体感・体験する与謝野」をキーワードに商品造成を進める。

2. 個別計画の概要

- ちりめん街道滞在交流マスタープラン実施計画（令和 6 年度策定）計画期間は令和 6 年度から令和 8 年度までの 3 ケ年。

<主なプロジェクト>

- ・ 空きスペース対策（空き家等の民間活用促進）
 - ・ 受入機運の醸成（暖簾の更新、観光バスの実証実験など）
 - ・ 体験・体感型コンテンツの展開（着物での街道散策、組み紐体験など）。
-
- 阿蘇ベイエリア活性化マスタープラン（平成 28 年 3 月策定）
 - ・ 対象範囲は弓木、岩滝、男山地域（重点エリアは阿蘇シーサイドパーク周辺）
 - ・ 次回（第 5 回）会議以降は、阿蘇ベイエリア活性化マスタープランの現状課題と見直しについて、具体的に議論を進めることを確認

（3）その他

第 5 回産業振興会議

日時：令和 8 年 1 月 29 日(木)午後 7 時から

場所：岩滝保健センター 2 階 会議室 1・2

議事：阿蘇ベイエリア活性化マスタープランについて

3. 閉会（小林会長）